

地球惑星科学委員会 IUGS 分科会

令和 2 年 12 月 28 日 17 時～19 時

Webex 会議

参加者：西（委員長）、木村、大久保（副委員長）、佃（幹事）、奥村、中田、益田、堀、掛川（幹事、書記）、北里

欠席：斎藤，谷口

議題

（1）IUGS 総会の報告（北里委員＋西委員長が説明）

10/28～30 / 2020 に web で開催

John Ludden（資源や環境の専門家）が President に選出、今後トップダウン的運営が起こる可能性。

Secretary General は Stan Finney（再任）、Tressuer は北里先生（再任）

Vice President のうちの一人は韓国（次回 IGC 開催国）の Daekyo Cheong さんが選出された。理事会メンバーのうち 4 名が女性で、ジェンダーを配慮した結果になった。

●Deep-time Digital Earth が継続して開催される (IUGS のメインプログラムとしての認識、中国から資金提供、イギリス主導)。世界中の地質情報を中国に集約。IUGS も資金提供するので運営のバランスや主導権が今後の問題。

●Deep-time Digital Earth には末廣先生は日本の委員として参加。陸で行われているデジタルマップ計画に IODP を組み込みたいという意図もあった。

●新たに 10 個の GSSP (Chibanian 含む) が ratified された。

●来年の 36 回の IGC インド開催はキャンセル。インドは規模を縮小した国際会議を 2022 年にオンラインで開催したいという意向があり、IUGS はそれを支援する。37 回 I G C は予定通り韓国釜山で開催する。

●IUGS 参加国のうち分担金を出せない国が多いので、対応を考えている。分担金の金額は少ないので IUGS の財務には大きな影響がない。

(2) IUGS シンポジウム地質災害の開催

大久保委員からシンポジウム「地質災害研究の最先端と社会実装への取り組み」の計画案を報告。本来は 2020 年 5 月に開催予定が延期された。2021 年 5 月 26 日 (水) にオンラインで開催予定。3 つのセッション (海底地質リス

ク（川村喜一郎コンビナー）、津波調査ガイドライン（後藤和久コンビナー、大規模地質災害と社会実装（山崎秀策コンビナー）で構成。パネルディスカッションも含む。経費が 40 万程度（東京地学協会から補助金あり）。上記案が承認された。幹事会（次回 2 月）にこの承認案を送る。IUGS 本体との関係で John Ludden の挨拶を含める案も提案され検討することにした。

（3）学術フォーラム

「地球惑星科学の国際学術組織の活動と日本の貢献」2021 年 2/15 開催予定。特に供託金を払っている分野(IUGS も含める)の代表者に講演をお願いする。チバニアンの話題以外にも、資源や環境など IUGS が貢献できる内容も講演に含めることも検討する旨を北里委員から提案があった。

（4）学術会議の動向

西委員長から最近の情勢に関して web 上に情報がある旨、説明があった。7 名分の国際組織に対する派遣旅費は現在確保されているが、将来的に継続的に予算確保するためには国際的プレゼンスを明確に示す必要もある。さらに

国際会議の委員に日本人が就任できないケースも見受けられ、地道な活動を含めて対応する必要性もある。

学術会議の今後の動向に関して意見交換を行った。学術会議が国際的窓口としての存在は重要であるが、改革の目玉となる「切り口」が必要では、IUGSの国際的な役割の重要性を強調すべき、資源獲得に対する日本国政府積極関与などの意見が出た。

その他

- ジオパークに関して意見公開を行った。前期の提言をいかに発達させるか（地域経済への波及効果）などの議論を行った。
- チバニアンシンポジウムを開催予定であるが、コロナの状況を見ながら開催時期、企画などを継続して検討する。